



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.164
2016.3.3

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 小島暉壯
TEL (053) 463-0458
FAX (053) 463-0458
編集(広報委員会)阿部行俊

未来遺産を学ぶことは、過去を学び、平和な未来を作ること 第6回 未来遺産『私のまちのたからもの展』

浜松ユネスコ協会主催「私のまちのたからもの展」は、今年で6回目を迎えました。長い歴史と伝統のもとに豊かに培われてきた地域の自然や文化や歴史を、100年後まで伝える運動です。本年度も、浜松市・湖西市から819作品の応募がありました。審査の結果、特別賞26点、佳作49点、学校賞2校、入選125点が決まりました。審査員からは、「自分の確かな目と心で捉えた作品が多く見られるようになってきた。」というコメントを頂きました。(加藤泰弘)



審査の結果、特別賞26点、佳作49点、学校賞2校、入選125点が決まりました。審査員からは、「自分の確かな目と心で捉えた作品が多く見られるようになってきた。」というコメントを頂きました。(加藤泰弘)

【展示会】1月14日(木)～25日(月)
遠鉄百貨店6階 ギャラリー・ロゼ
【表彰式】1月17日(日)
遠鉄百貨店8階 遠鉄ホール

表彰式 来賓のご挨拶

浜松市長 挨拶

副市長 鈴木伸幸 氏



多くの小中学生の皆さんが、自分たちの住む地域に目を向け、誇りを持って守り伝えていきたいと思う地域の文化や自然について、改めて考えていただいたことをたいへんうれしく思います。

皆さんの作品は、技術的に優れているだけでなく、たからものに込められた思いや願いが収められており、人の心を動かす素晴らしいものと思います。これからも、作品展を通して、小中学生の皆さんが、地域の文化や自然に関心をもって、自分たちの視点でたからものを発掘し、豊かで魅力的な地域づくりの意欲が一層高まっていくことを願っています。(要旨抜粋)

静岡県教育委員会教育長 挨拶

木苗直秀 氏



身の回りにある文化と自然を大切に思う豊かな感性とそれを100年後まで守り伝えたいという強い思いが感じられ感銘を受けました。この感性を大事にして成長し、地域の文化や自然について理解を深め、未来に繋がる社会を作るために活躍されることを期待しています。

子供たちが希望をもって自ら地域に目を向け、地域に愛着をもつことは、現代社会において地域規模の課題解決に向け、主体的に取り組むことにつながります。(要旨抜粋)

浜松市教育長 挨拶

花井和徳 氏



まず、みなさんの感性です。身の回りの人、物、事柄を素晴らしいと感じる心、それを素直に表現する心を益々磨いていって欲しいと思います。

次に、自分以外の子供たちが大切に感じているものを知ってほしいということです。友達の作品を見て、浜松には全国に誇ることでできるたからものがたくさんあるということを知ってもらいたいと思います。

最後に、たからものを発見することを通して、浜松をもっと知って、好きになってほしいと思います。そして、大好きな浜松で自分らしさを発揮して、自分の良さを感じながら活躍できる大人になってほしいと思っています。
(要旨抜粋)

浜松商工会議所会頭 挨拶

専務理事 森 猛 氏



受賞された作品を見せていただきました。絵や文章が素晴らしく、感動いたしました。作品展を通して普段気付かないところに、たからものを見つけた人も多いと思います。

来年の大河ドラマで女城主井伊直虎が放映されます。今まで、井伊直虎を知らなかった市民も多かったと思います。深く掘り下げてみますと、素晴らしい地域のたからものがあることが分かりました。井伊谷のまちだけでなく、浜松のまちだけでなく、日本のたからではないかと思います。大切にしていきたいと思います。(要旨抜粋)

浜松市長賞「モクレンを未来に」

浜松市立三方原中学校3年 笹田実里さん



私の地元には、「モクレン通り」というハクモクレンが植えられた通りがあります。通学や通勤などの生活を支える道路として、朝夕は交通量も多く活気に満ちています。毎年、ハクモクレンが咲くと景色がパッと明るくなって「春が来た!」と嬉しくなり、愛着を感じています。

改めて由来を調べてみると、1914年(大正3年)から1964年(昭和39年)までの約50年間、この通りには、軽便鉄道奥山線、別名ラッキョウ軽便という電車が走っていたそうです。その後、当時の曳馬野駅から豊岡駅辺りまでの道沿いには、街路樹としてハクモクレンが植えられました。春先、ハクモクレンが一斉に咲くことで「モクレン通り」として知られていることが分かりました。

私は、この「モクレン通り」への思いや歴史を知ってもらいたくて、絵に描こうと思いました。桜より一足早く、春を告げるかのように一斉に咲き誇るハクモクレンは、美しく心を奪われます。「モクレン通り」は、私の自慢の場所です。

時に、ハクモクレンの花が、白い鳥にたとえられること

があります。鳥が空に羽はたくように、人々の旅立ちを見送り、また、鳥が羽を休めるように、人々を迎え入れてくれるハクモクレンは、これからも私たちを見守ってくれると思います。いよいよ、私も三方原中学校を卒業する年を迎えました。

私は、この絵を描くことによって、自分の身近な所にも過去から現在にかけて、私たちの生活を彩ってくれるものがあることを知りました。普段、近すぎて見えていない大切なものに気付いて、未来へつないでいければと思います。



市長賞(西田遥翔さん・笹田実里さん)

秋の浜松城公園に親子92名

11月28日(土)
親子公園探検隊



探検隊は4つのグループに分かれて、講師の説明を聞きながら、アラカシやシラカシ、コナラ、マテバシイ、イチイガシなどのドングリを拾い集めました。そして、形状の違いや大きさを比べました。

例年、この時期の浜松城公園は紅葉も真っ盛りです。ところが、今年は暖かな日が続いたため紅葉が遅れていました。それでも、オオモミジやイロハカエデ、トウカエデ、イチヨウ等の美しい葉を探しながら、みんなできれいな落ち葉をたくさん集めることができました。



また、子供たちはくるくる回って落ちるカエデの種で遊び、風に乗って飛ぶ種があることを知りました。そこで、飛ぶ種として有名な「アルソミトラ・マクロカルバ」という外国にある植物の種の模型を作って、種を飛ばす遊びをしました。風が強く吹いていたため、中には50m以上も飛んで、高い木の上を越えていったものもあり、参加者は歓声を上げて楽しんでいました。自然界では、1kmも飛んだという調査結果もあるそうです。

植物が自分の子孫を広げていく知恵を実感するとともに感心していました。

こうした活動を通して、参加者は、自然のすばらしさや浜松城公園の自然の豊かさを満喫することができました。参加者の感想からは、自然の見方が変わったという声がたくさん聞かれました。(袴田正義)

アルソミトラ・マクロカルバ 原産：熱帯アジア

ハンググライダーのようなかたちで、風に乗って遠くへ散布されます。この翼果をヒントにグライダーが開発されました。そして、アルソミトラ型飛行機が製作され、後に尾翼を加えたタウベ型飛行機へと発展しました。



正多面体クラブWebサイトより

第17回 山本自然科学賞授与式

1月23日(土)

科学によって世界の平和に貢献する人に育ってほしい

山本賞は、医師であり、ユネスコ運動を推進された山本和子先生のご主人である山本正俊先生の基金によって作られました。



受賞者の皆さん（前列中央 山本和子氏）

「科学によって世界の平和に貢献する人に育ってほしい。」医師であり、人の命を預かる山本先生の精神は崇高なものであったと思います。山本正俊先生は亡くなりましたが、きっと皆さんの心に、たゆみない光を与えて下さると思います。受賞される皆さんは浜松の希望です。私たちは皆さんに、大きな期待を寄せています。

（小島会長挨拶より抜粋）

来賓挨拶

浜松市教育長 花井和徳 氏

受賞者の研究テーマの数字が示しているように、いずれの研究も長い年月をかけて研究を続けた成果が、正賞という輝かしい受賞に結びついていると考えております。また、湖東高校の研究は5年間、研究を継続されたとうかがっております。受賞者の皆さんは、これまで研究をしてきたテーマをさらに極めたり、この体験を大きな糧として新たな課題に挑戦したりして自然科学への興味関心を一層高めていってほしいと願っています。（要旨抜粋）



受賞者の紹介

○浜松市立双葉小学校 6年 大山祐花さん

「太陽で料理することができるのか 4」

太陽の恵みに注目してきた4年間の継続研究である。作ってもらったステンレス製の集光板と自作の銀紙の集光板により「煮る、蒸す、焼く等」の実験を行った。最高温度は自作のもの127.4℃に達した。きちんとしたデータを測定し、太陽光の熱、反射、対流そして伝導まで押さえている。研究者の温かい人柄を感じさせてくれる作品である。太陽の恵みに注目してきた4年間の継続研究である。

○浜松市立積志中学校 3年 小池未知さん

「ツマグロヒョウモンの研究 7 ～ 黒いサナギのひみつ ～」

7年間の継続研究である。次々に出てくる疑問に対して毎年、目的、方法、予想、記録、まとめというように意欲的に研究を進めてきた。そして、蛹に夏型と秋冬型があり、成虫の翅にも違いがあることを発見した。長期にわたる飼育活動には生物への愛情が感じられる。

○浜松市立南部中学校 3年 池富綾人さん

「身近な植物の除菌殺菌効果 part 2

～植物エキスを抽出し、常在菌への除菌殺菌効果をみることができるか?～」

「菌」に注目して4年。植物の除菌殺菌効果について2年間の継続研究である。寒天の培養や植物抽出法など非常に高度な技術をも習得し、より精密さを求めた実験へと発展させた。綿密な実験計画のもと、ひたむきな努力の結果、アカジソの抽出液による除菌殺菌効果を立証した。

○静岡県立浜松湖東高等学校 天文・生物部

「外来種タカサゴユリの研究」

先輩から後輩へと5年間の継続研究である。急激に分布を広げているタカサゴユリに着目し、分布や土壤環境、種子の生産能力、温度と光条件そして、経過時間に伴う発芽能力の変化等、素晴らしい研究成果である。そして、タカサゴユリがより涼しい場所へ進出する可能性、植物の大群落が急になくなる原因について今後に期待をしたい。

講評 子供自身の追初心を育てるという視点

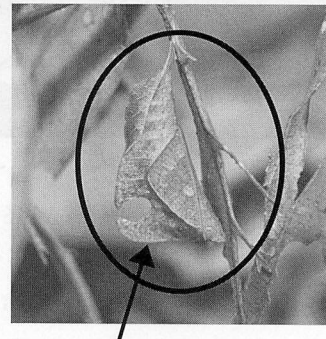
浜松ユネスコ協会副会長(浜松科学館館長) 安藤隆敏 氏

山本自然科学賞の選考基準は、「学ぶ楽しさや充実感を実感できているか。」です。

大山さんは、家族も巻き込んで楽しみながら実験に取り組んだ様子が表れていました。小池さんは、テーマを次々と発展させて取り組んできたことが分かりました。池富さんは、菌を扱うというこれまで小中学生には例のない分野でしたが、非常に精密な実験方法や技術を体得しております。湖東高校の天文・生物部は年度ごとに先輩から後輩に学ぶ楽しさが伝わっているように感じました。

一方で、今回の正賞に選ばれなかった研究も数年にわたる力作揃いでした。違いは、子供たち自身が学ぶ楽しさや充実感を実感していることが作品に表れていたかということです。今、理科自由研究はご家庭の理解や協力が不可欠です。さらに、様々な支援の場や指導を受ける場があります。それ自体は大変に良いことです。しかし、そこで大人の科学論理に合わせてしまうことが問題であると感じました。つまり、実験のサンプル数が少なくても大人の科学理論にあった方向に結論を急いでしまったり、結論への近道をたどるために子供には無理な発想の研究計画を進めて背伸びさせてしまったりという例がそれです。子供自身の追初心を育てるという視点が忘れられているのではないかと思います。

2015年ノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智先生は次のようなことを明確に言っています。「人間が抱える課題の答えは、すべて自然の中にある。」それには、自然の事物、現象に対して畏敬の念を持つこと、人間第一主義ではない謙虚さを持つことがなければ迫ることは出来ないと思います。受賞された皆さんが今後の生活の中でもこれまで培ってきた「科学する心」をますます発揮されることを期待して講評とさせていただきます。(要旨抜粋)



「枯れ葉に擬態して春を待つスミナガシの蛹」



貴重な自然を
次の世代に残しましょう。

山本和子



印刷のエキスパート

株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778

学校委員会 ユネスコ科学教室

教室生93名、家族37名

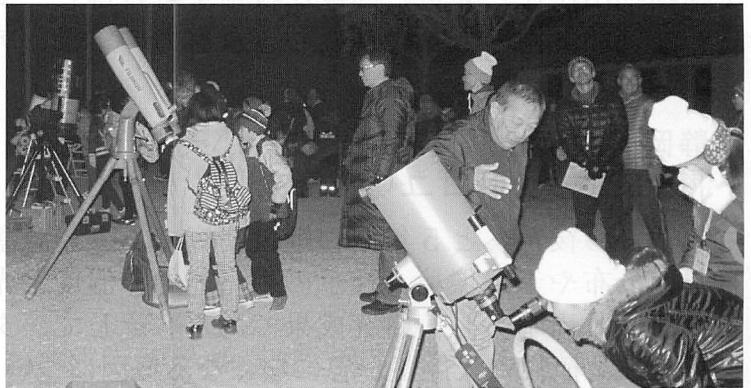
宇宙への挑戦 神秘的な星の世界をのぞこう

12月19日(土)・20日(日) 浜松市かわな野外活動センター

天体教室では、望遠鏡や双眼鏡を使って、アンドロメダ銀河、M45（すばる）、上弦の月などを観察しました。星の温度による色の違いや、星の一生の様子などを考えることができました。

翌日は、冬の自然を観察しました。葉が落ちた冬だからこそ見つかるものがあります。ふわふわのやわらかい毛でおおわれたコブシの冬芽、リスがかじってエビフライのような形になった松ぼっくり、じっと春を待つ「カマキリの卵のう」や「ゴマダラチョウの幼虫」など、驚くほどたくさんの自然を見つけることができました。自然を愛する心は、全身で自然を感じたり、なぜだろうと疑問をもったりすることによって育っていくと思います。かわなの自然を心と体で感じた観察会でした。

(喜澤俊輔)



電波の不思議 —ラジオを作ろう—

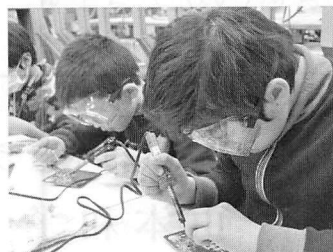
1月30日(土) 浜松科学館



今回も100人を超える教室生がラジオ作りに挑戦しました。1年目の子供はAMラジオを、2年目の子供はFMラジオを製作しました。今の時代の子供たちは、半田を使って工作をする経験は全くとっていいほどありません。基板にコンデンサーや抵抗などを一つ一つ取り付けていく細かい作業は、集中力と根気がいりますが、さすがは

科学教室の子供たち。すぐにコツを覚えていきます。

そして約2時間が経ち、完成したラジオの音が聞こえてくるようになりました。しかし、いつも成功するというわけではなく、どうしても鳴らない子もいます。スタッフが基板をチェックしても原因が分からないことも。電気や電波といった目に見えないものの扱いの難しさ、奥の深さを感じます。ラジオを作るという体験は、子供たちにもものをつくる喜び、機械的なものへの興味、電波の不思議など、いろいろな感覚を味わわせられたのではないかと思います。(石塚稚人)



浜松ユネスコ協会 2016年新春のつどい

1月23日(土)
ホテルコンコルド浜松

会長挨拶 ～ユネスコの本質 それは平和～

小島逞壯会長

空の雲にも、鳥のさえずりにも、春の気配を感じる頃となりました。本日はお忙しい中、ご来賓のご臨席をいただき、こうして浜松ユネスコ協会の新春の集いが開催できますことを心より御礼申し上げます。

私のまちのたからもの展では、未来遺産に対する、子供らしい豊かな心情や、平和への強い願いを感じることができました。また表彰式の、小学生の一生懸命の姿に、また中学生の凛々しい姿に、子供の可愛さと、これから彼らの未来に、永遠の平和を祈らずにはいられない気持ちでした。

昨今、至る所で、ユネスコの名を借りた、観光や産業の振興が目立つようになって参りました。しかし、ユネスコの本質は、観光でも、産業でもありません。ユネスコはあくまでも、世界の平和を誓った国際機関なのです。今から70年前、日本は太平洋戦争で310万人にのぼる尊い命を失いました。その戦争の愚かさを学び、その教訓を生かすことが、私たちユネスコの使命であります。教訓を次の世代へとつなげ、その積み重ねの上に平和が存在すると考えております。



山本自然科学賞表彰式に続き、岡本肇相談役の乾杯の音頭で懇親会が開かれました。和やかな雰囲気の中、会員相互の親睦を深めることができました。



相談役 岡本 肇 氏

前会報に掲載された秋山先生の文章を読み、改めてニュートンの偉大さを感じました。哲学と数学を繋げたのはニュートンであって、現在の科学の基礎となっています。浜松ユネスコは、いつまでもユネスコ本来の趣旨に基づいて教育・科学・文化、そして平和を追究する会であって欲しいと思います。(要旨抜粋)



榎

にれとうぼう
榎陶房
浜松市南区瓜内町860-1
TEL 080-3069-0240

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

第6回 未来遺産 私のまちのたからもの展 特別賞作品から



市長賞「亀山トンネル」
浜松市立大平台小学校5年
西田 遥翔



県教育長賞「天浜線とユリカモメ」
浜松市立大平台小学校4年
奥村 耕一



市教育長賞「祭屋台」
浜松市立笠井小学校6年
鈴木 椋大



県教育長賞「河輪土地改良記念碑」
浜松市立東陽中学校2年 杉山亜矢子



市教育長賞「御殿屋台のキラメキ」
浜松市立中部中学校1年 丸花 真斗

2016年度 ユネスコ科学教室 受講生募集

募集対象：浜松市内の小学校5・6年生 100名（応募多数の場合は抽選）

予定講座：年間9回 予定（開講式 4月29日予定）

会 費：4,000円（富士山へのバス代、かわな宿泊は別途）

募集期間：4月20日までに往復ハガキで応募

詳しくは学校で配布される応募要項を御覧ください。

Web <http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/> 浜松ユネスコ協会



あなたも一緒に
会員募集
問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数（16.2.4現在）

賛助	法人	維持	理事
32	1	7	45
普通	学生	合 計	
48	0	133	